



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2006.08.28

No. 29 - 52

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

IFALPA 本部役員の任務と EBM Meeting 報告

<http://www.ifalpa.org/>もご覧ください

IFALPA 本部役員は従来 PO (Principal Officer)と呼んでいましたが、今年から EB (Executive Board)と呼ぶことになりました。EB の日常活動も含め、ご紹介します。

2002 年に日乗連が正式に IFALPA Members Association になり組合の国際化が進み、今年 2006 年になっては日乗連の活動も国際的に定着してきました。先日 8 月 8 日には不幸にも Turkish Airline が日本に向けて飛行中に Turbulence に遭遇し、乗客、乗員にけが人がでました。日本では常に刑事捜査が優先される恐れがあるため、日乗連では即 Turkish ALPA に電話と E-mail で連絡をとり事故後の Care を行いました。幸い今回は大きな Trouble もなく無事 Duty にて帰国することができました。過去、Garuda Indonesia Airlines, Northwest Airlines や Qantas Airlines の事故でも同様に遅滞なく Care を行ってきています。また、日本の乗員が海外で事故や Incident に遭遇したときにも当該国の ALPA と連絡を取りあって事後処理を行っています。過去には、Philippine, Hong Kong, Los Angeles 等での Case に対応してきました。

IFALPA ではこのような事故や Incident の際の対応は AA(Accident Analysis)委員会を中心に対応しますが、IFALPA 本部役員も必ず状況を把握し、必要に応じ各国の政府機関に要請を行っています。2000 年 10 月に台北空港で起きた Singapore Airlines B744 事故の際には、当該 Crew が出国を認められなかった為、本部役員が直接台北まで行き、政府との交渉にあたりました。また、JAL 706 裁判のような Critical Case においては、日乗連 News 等で紹介されているように政府に Letter を送付し、直接面会を求めて Pilot の立場を説明してきました。このような場合、IFALPA は”The Global Voice of Pilots”の活動原則に基づいて行動や要請を行います。

今年 2006 年 4 月 Istanbul で開催された IFALPA 総会に於いて、これまでの 6 人による本部役員制度を改定し 10 人に増員することにしました。具体的には、Members and Regional 担当 PO が全世界の地域を一人で担当していましたが、それはあまりにも広域であり手厚い活動ができなかった為、今年から世界を 5 つの地域に分け、Africa/Middle East, Asia/Pacific, Central America/South America, Europe, North America の 5 つの地域に分け、それぞれの地域から本部役員を選び、総計 10 人による本部役員制度に変更しました。ただし、今年 2006 年に限っては過渡期として、2007 年総会まで総員 11 名で運営しています。

現在の本部役員

以前は Principal Officer(PO)と呼び、今年からは Executive Board(EB)と呼ぶことに変更しました。年に 5 回 Executive Board Meeting(EBM)を開催し IFALPA の全体の運営に関する会議を行っています。Executive Board Meeting は執行委員会であり、IFALPA Committee には必ず本部役員を派遣し、EBM 執行委員会に



Feedback します。また、各委員会で討議された IFALPA Policy の改定についてもすべての項目について審理し総会に提出する準備をします。更に、ICAO 会議への代表者の申請や 17 名いる IFALPA Staff の賃金や雇用についても決済します。そして前述した各国政府機関への要請も日常的に対応できる体制を整えています。以下本部役員で、EVP とは Executive Vice President のことです。

President Captain, Dennis Dolan, U.S.A.

Deputy President, Captain Carlos Limon, Mexico

EVP - Administration & Finance, Captain Hans Peder Tanderup, Denmark

EVP - Professional Affairs, Captain Georg Fongern, Germany

EVP - Technical Standards, Captain Lindsay Fenwick, U.S.A

EVP - Membership & Regional Captain, Masayuki Ando, Japan

EVP - AFI/MID, Captain Mohamad Kheir Hassoun, Lebanon

EVP - Asia/Pacific, Captain Stu Julian, New Zealand

EVP - CAR/SAM, Captain Salvador Gayón, Mexico

EVP – Europe, Captain Henk de Vries, Netherland

EVP – NAM, Captain Paul Rice, U.S.A.

EBM, Executive Board Meeting

最近では、2006 年 8 月 8 日から 11 日まで Poland Warsaw にて Polish ALPA の協力のもとに第 2 回 EBM, Executive Board Meeting を行ってきました。今年 4 月の Istanbul 年次総会以降各地で IFALPA Committee が開催され、それぞれの報告書が作成されていますので、検討し必要な Feedback を行いました。具体的な内容は、それぞれの IFALPA 委員会より報告されますのでここでは詳しく述べませんが、最近の Low Cost Carrier, UAVs (Unmanned Aerial Vehicles), Age 65, Bang Kok New Airport 建設、中国の Pilot の状況等に関して討議しました。

UAV について IFALPA は反対してきていますが、最近その開発が更に進み、看過できない状況になってきています。機体大きさも B737 ほどになり、今年の 4 月 25 日には Arizona USA で墜落事故が起きています。来年の総会で Policy の見直しができるよう関係委員会に検討を依頼しました。

Age65 については今年の 11 月に ICAO Rule の変更が予定されています。UK では国内法が改定され Pilot のみならず、すべての雇用に対して 65 歳定年となるようです。USA では ALPA International (US ALPA) が 60 歳を堅持することを決議しており、現在のところ FAA もそれを尊重する意向のようです。

中国は昨年 FALPA に加入しましたが、現在 10,000 人の Pilot がいるものの IFALPA 加入は 5,000 名にすぎず、国内組織の整備が待たれるところです。今年 6 月には北京で IFALPA AGE 委員会(Aerodrome and Ground Equipment Committee)が開催されました。その報告は IFALPA Web Site に掲載されていますのでご一読ください。<http://www.ifalpa.org/> で Top page 及び News の中でごらん頂けます。航空大臣とも面会しています。

また、日本の JAL706 Case, JAL907 Case の高裁の進捗状況についても本部役員は熟知しており、必要に応じ対応できる体制をとっています。

11 月 6-9 日にはこの EBM を日本の日乗連 Phoenix Building で開催することになっています。その際は日本の各乗員組合の役員との会談や、国土交通省に訪問することも計画しています。関係各位のご協力をお願いします。